

おはようございます。今年度も引き続き西高の校長を続けることが出来ました5年目の関田晃です。併せて大宮国際中等教育学校の校長も兼ねることになりました。1年間どうぞよろしく申し上げます。

今朝はあいにくの雨ですが、先週からの初夏を思わせる陽気のおかげで、グランド西の加茂川沿いの桜が満開になりました。しばらくは見ごろが続きそうです。そんな満開の桜の中、先週金曜日4月5日に大宮国際中等教育学校が開校し、1期生160人が入学しました。この後、対面式がありますので、どうぞよろしく申し上げます。

さて、今月1日に新しい元号「令和」が発表されました。元号が変わることは滅多にないことなので、今日はこのことについて話します。

「平成」は1989年1月7日に始まり、30年3ヵ月以上を経て今月30日をもって幕を降ろし、5月1日午前0時から「令和元年」の幕開けとなります。

私たち教職員の多くは昭和生まれですから、昭和から平成への変遷を体験していますが、平成生まれの皆さんにとっては初めての経験ですね。元号は、天皇の皇位が継承された時に変わると法律で定められていて、明治以降、皇位の継承は天皇の崩御（天皇が亡くなること）をもって為されるとされてきました。そのため昭和は、昭和天皇が崩御された昭和64年1月7日までで、翌1月8日から平成となりました。

しかし、今上天皇（きんじょうてんのう＝現在の天皇）が「お気持ち」として生前退位を暗に示され、一昨年「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」が国会で成立したことで、一代限りの特例として、天皇陛下は生前にご退位し、皇太子殿下に皇位を譲位することが決まりました。

昭和は1926年12月25日に始まりましたので、昭和元年は1週間しかありませんし、最後となった昭和64年も1週間しかありませんでしたので、昭和は実質62年と2週間でした。このことから、平成31年である現在、31歳から92歳までの人は昭和と平成を経験しており、少なくとも94歳の人は、大正、昭和、平成の3つの時代を経験していて、来月には4つめの時代を経験することになります。さらに明治生まれである107歳を超える方になると、5つの時代を経験することにもなります。

107歳を超える人なんて、いるの？と思うかも知れませんが、1年前に亡くなった日本の女性は117歳260日の長寿で、世界歴代3位だそうです。日本人で存命中の最長寿の方は今日で116歳93日だそうですし、存命中の世界長寿者トップ10のうち実に5人は日本人で、しかも全員女性です。

そんなこと言っても、それは例外中の例外であって、日本人の平均寿命は女性87歳、男性81歳なんだから、107歳超えなんて自分たちには縁が無いよ、って思いませんか？

でも、そんなこと無いみたいです。2年ほど前に、ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットン教授が発表した研究によると、2007年に生まれた日本人の2人に1人は107歳まで生きるといいます。皆さんより5～6歳若い人達のことですが、5～6歳なんて誤差の範囲ですから、皆さんの半分は107歳まで生きると考えていいと思います。

これから先、90年を生きる皆さんにとって、今年1年なんてたいしたことない1年と考えるかも知れませんが、先月の終業式で話したように、月日は過ぎてしまえば後戻りはできません。春休みの2週間で、入学以来これまでの2年間を振り返って反省したであろう皆さんにとって、いよいよ具体的に卒業後の進路を決めていく1年になります。今日、既にスタートを切っている状態で登校していますか？ 進路希望の実現に向けてメラメラと燃えていますか？

平成31年4月30日の午後11時59分と、令和元年5月1日午前0時の間で何が変わるのかと言っても、私たちの実生活で大きな変化があるとは思えません。それでも、新しい「令和」という時代を迎えるに当たって心機一転、自分自身の近い将来の進路を、できる限り自分の希望に沿った形で歩いて行けるよう頑張るには、絶好の機会です。令和元年の皆さんの活躍に期待しています。1年間がんばりましょう！